

第 67 回日本医学検査学会の開催にあたり



一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
代表理事会長 宮島 喜文

本学会が、一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会の担当で、メインテーマを「Let's go this way –その道を進もう–」サブテーマを「多様な役割のなかで、新たな存在価値を示す」として盛会に開催されますことをお慶び申し上げます。

また、会員の皆様には、日頃から一般社団法人日本臨床衛生検査技師会（以下、日臨技と略す。）の活動につきましてご理解、ご協力を賜りこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、私たち臨床検査技師を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。会長就任時に掲げた「日臨技を再生し、未来を拓く」のスローガンの下、第 64 回学会（佐賀県）では「時代の求める風になれ」をメインテーマに、従来の受動的な概念から、検査室から医療現場に積極的に参画するための意識改革、イノベーションの必要性について、第 65 回学会（兵庫県）では、「Challenge—伝統の継続と未来への変化—」をメインテーマに、質の高い精度保証を担保した上で、国民の医療、地域医療を支えるメディカルスタッフの一員として、患者に寄り添い、専門性を生かして活躍するために、今何が求められているか、第 66 回学会（千葉県）では、「Vision—夢・創造—臨床検査の更なる進化と多様性を求めて」をメインテーマに、昨今の新しい検査技術や検査業務の在り方、業務拡大の可能性など各分野において目指すべき臨床検査の Vision を語り合う場として企画運営されました。

さて、平成 29 年通常国会において「医療法等の一部を改正する法律」が成立し、6 月 14 日付で公布され、医療機関並びに衛生検査所における検体検査に精度管理が新たに創設されました。平成 30 年 12 月の施行に向け、日臨技の新たな精度保障・精度管理の体制構築に向け取り組んでおります。

また、がんゲノム医療の推進を背景とした、「がんゲノム医療中核拠点病院」の整備計画や「がんゲノム医療コーディネーター」の創設がされ、医療提供体制の再構築、地域医療構想の推進などの政府主導の医療体制の変革、第 4 次産業計画などによる医療機器、IT 技術の進歩、医療分野における AI 技術の応用など、私たちを取り巻く医療環境は大きく変わろうとしています。従来の検査業務体制からの変革が強く求められ、専門性を生かして「患者に正面から向き合った業務」への参画に向けた事業展開に積極的に取り組んでおります。本学会のテーマでもある「その道を進もう」について考える機会となることを期待します。

末筆ではありますが、本学会に参加された会員にとって有意義な学術集会であることを祈念するとともに、本学会の企画、運営にご尽力いただきました山口浩司学会長を始め、一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会の皆様に厚くお礼申し上げます。